

通し番号	4990
------	------

分類番号	R01-24-12-06
------	--------------

薬膳料理向け作物としてヤブカンゾウの栽培方法の確立

[要約] ヤブカンゾウは多年草（宿根草）で、定植株から新芽が発生するため年数経過にともない単位面積当たり収量（蕾）が増加し、3年生株で45kg/a程度である。生鮮での貯蔵性は低く、密封冷蔵条件で1～2週間である。1年目に苗購入し、地下茎から発生する新芽を利用して3カ年で1aの圃場にするケースを想定したところ、3年目の農業所得が63千円/aと試算された。

神奈川県農業技術センター・生産技術部

連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

県は、県西地域を「未病の戦略的エリア」に位置づけ、平成26年3月に県西活性化プロジェクトを発足した。当所は、「未病を改善する」をキーワードに、薬膳料理用農産物の生産、販売等の活性化に取り組んでいる。そこで、これまであまり馴染みのなかった薬膳料理向けの有望品目を検索する中で、県西地域への導入を想定したヤブカンゾウの栽培適応性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 収穫物となる新芽は3月下旬～4月下旬頃、蕾は6月中旬～7月中旬頃に収穫できる。植付け1年目から収穫可能で、収量は年々増加する（表1）。
- 2 株当たり花茎数は1本で、蕾の収量は3年生株で約9個/株、約45kg/aである（表1）。
- 3 常温での貯蔵性は低く、ビニル袋に密封して冷蔵貯蔵（12℃）の場合では、約1～2週間、品質が保持される（長さ5cm未満）。
- 4 栽培コストのうち種苗費が約80千円と1年目の経費の約9割を占める。そこで、1年生株から発生する新芽を2年目以降の定植苗に利用し、栽培面積を増加させる栽培方法での農業所得は、1年目▲77千円/0.33a、2年目27千円/0.67a、3年目63千円/1aと試算される。

[成果の活用面・留意点]

- 1 蕾は長さ4cmを目安に収穫する。取り遅れると開花する。
- 2 基肥としてN:P₂O₅:K₂O=0.3:0.3:0.3kg/a施用し、購入苗または株分けした苗を4月に、畝間50cm、株間25cm（栽植本数800株/a）で定植する。
- 3 地上部は冬期に枯死するが、地下部は残り、翌春、新芽が発生する。
- 4 蕾にはキスゲフクレアブラムシ、アザミウマ類が寄生する。特にアザミウマ類は被害痕が激しいと出荷不可能となるが、有効な防除法がない。
- 5 新芽、蕾は加熱して食し、一般的な山菜同様、食べ過ぎに注意する。

[具体的データ]

表1 ヤブカンゾウ(蕾)の収量特性

試験区		葉枚数 ^z	草丈 (cm)	花茎長 (cm)	花茎数 ^x (本/株)	収穫 期間	長さ (cm)	蕾重 (g)	株数 ^w (本/m ²)	収穫量		
年数 ^z	苗									マルチ ^y	(個/株)	(kg/a)
3年生株	大苗	なし	9.6	64.9	83.1	1.0	6/15-7/12	4.8	2.1	25	8.6	45.2
2年生株	大苗	なし	8.7	52.3	70.7	1.0	6/18-7/12	4.7	1.8	26	6.6	30.7
1年生株	大苗	マルチ	10.2	51.3	71.6	1.0	6/15-7/2	5.4	2.3	8	7.3	13.2
		なし	10.3	42.4	61.9	1.0	6/15-7/2	5.2	2.2	8	6.0	10.3
	小苗	マルチ	11.0	32.1	46.9	1.0	6/18-7/2	4.8	1.7	8	5.3	7.0
		なし	6.5	24.4	34.3	1.0	6/21-7/2	4.3	1.3	8	2.0	2.1

^z2016年5月植えが3年生株，2017年4月植えが2年生株，2018年4月植えが1年生株で50g以上を大苗，50g未満を小苗とした。^yマルチ区は生分解性マルチ（黒）を使用した。^x花茎数は，1株当たりの花茎数を示す。^w株数は，単位面積当たりに成育している株数を示す。



図1 蕾の大きさと花卉の形成状況（バー：4cm）



図2 地下茎から新芽発生（種子はできない）

表2 ヤブカンゾウ栽培経済性試算例（栽培3年目）^z
(100m²当たり)

収量 (kg)	28.7
単価 ^y (円/kg)	3,000
粗収入 (円)	86,200
経営費 (円)	22,589
(経営費内訳)	
物財費 ^x	2,819
(物財費内訳)	
種苗費	0
肥料費	347
農薬費	1,315
諸材料費	0
農機具費 ^w	692
光熱水費 ^w	465
出荷経費 ^v	19,770
(出荷経費内訳)	
出荷材料費	2,880
出荷運賃	3,960
出荷手数料	12,930
農業所得 (円)	63,611
投下労働時間 (時間)	69
時間当たり所得 (円/時間)	927
所得率 (%)	73.8

^z2018年度の試験栽培実績に基づき，1年目は購入苗を0.33aに植え付け，2～3年目に新芽を植えて3年目に1aにするケースを想定して経済性を試算した。^y横浜A商店にサンプル出荷した際の聞き取り希望単価から想定した単価。^w農機具利用経費は，「神奈川県作物別・作型別経済性標準指標」の経営類型④「軟弱野菜中心の露地野菜」に準じた。^v地元直売所へ3回/週（片道3km），出荷期間を1ヶ月として試算した。

- [資料名] 平成28～31年度試験研究成績書（野菜）
 [研究課題名] 薬膳料理に使用できる農作物の栽培法の開発
 [研究期間] 2016(平成28)年度～2019(平成31)年度
 [研究者担当名] 高田敦之
 [協力・分担関係]